

7) 更木地区（更木町振興協議会）



●地域の将来像

「誇れる自然、歴史、農業、教育～
地域みんなで守り育てる更木の宝」

更木は川・平地・森と自然環境に恵まれた地勢にあり、歴史を感じさせる史跡・遺跡も多くあります。農業基盤が整い、幼稚園・小学校を中心に人を育てる環境に強くこだわってきました。これら先人から受け継がれた更木の宝を、この先も更木のみんなで積極的に守り育てていく姿が、10年先を見据えた将来像です。

●地域の現状

更木地区は北上川東岸の平野部と北上山地西端に至る山間地にあります。高齢世代が農業を担い、若年世代は地区外で雇用されています。人口は1,238人（平成26年12月現在）。高齢化率65歳以上で39.9%です。（「北上市人口動態地区別比較」より）

地区内の公共的施設は次々に閉鎖され、現在は市立の幼稚園、小学校、交流センターだけです。

しかし、圃場基盤整備、平成大橋の完成や農事組合法人さらきの設立は地区の将来に希望をもたらす出来事です。

地域を特徴付けるものとして鹿踊り、こども神楽等の郷土芸能や八天遺跡等の史跡が

多くあります。多くの機能が削がれ、やがて限界集落化も想像される更木の置かれた状況から、地区住民の危機意識や結束力は非常に強いと自負しています。

例として、順調に実績を上げている桑葉加工事業と、農地集積化による新たな農業6次産業の展開が上げられます。この様な最新の動向や意識を積極的に活かした地域づくりを志しています。

●地域の課題

更木地区は、自然豊かな環境にありますが、農林業においては担い手不足による農地、山林の荒廃が進み何らかの施策が求められています。

また、人口減少、高齢化対策など住環境の対策も課題として上げられます。

地区としては、次の課題を重要事業として取り組んでいきます。

1. 少子高齢化が進行しています。
2. 転入希望の引合いに対応できていません
3. 限られた公共交通が高齢者に不便です。
4. 史跡が放置され、郷土芸能が後継難です
5. 環境保全に関心が薄いです。
6. 地区内の情報の入手、交換が困難です。
7. 一部に遊休・放置される農地があります
8. 平成橋開通後の明確な展望がありません
9. 市道に未整備箇所があります。

●地域づくりのプラン

1. ～人が集うふるさと更木～

①少子化対策事業

縁組の仲介や地元出身者の一覧表を作成し、直接的な働きかけを行う。

②分散型住宅・宅地提供事業

住宅団地誘致というかつての方針を変更し、提供可能な個別の空家・空地を一覧表に整理する。その後、需要者と所有者の仲介をする。

③平成大橋・新県道活用計画事業

平成 27 年に開通する橋と、新県道の活用について積極的に計画化する。

2. ～住み良いふるさと更木～

①地域交通システムづくり、高齢者に配慮した事業

コミュニティバス停留所までの送迎を行うボランティア車両の運行。自転車・ラクーターの置場の設置を導入する。

②情報伝達基盤導入の事業

ケーブルテレビ及びNTT光回線を利用した情報伝達基盤を導入し、全戸が受益することを目指す。

3. ～活力あるふるさと更木～

①6次産業展開事業

安心安全な農産物生産促進、特産物開発、自前加工、産直開設、直販促進、地産地消を行う。

②水田の基盤整備が完了したことに伴い、農事組合法人さらきを中心に農用地の利用集積を促進し、地域農業の持続的発展と活力ある地域の活性化を推進する。

4. ～守り育てるふるさと更木～

①公園開発の連携と活用事業

八天遺跡公園、ビオトープ公園、桜並木自転車道の隣接する3つの施設を連携、それぞれ

に活用しやすいよう推進する。

②イーハトーブ自然環境楽校事業

地域教育を目的とした山・川・食・農・ものづくりの自然学校を、子供・若者・何でもできる年寄りを巻き込んで行い、交流やふれあいを促す。

③ほたるの里事業

ほたる生息環境の公園・水路・水田を積極的に改善するほか、減化学農業を奨め、水田生物の環境も改善する。

④史跡再発見事業

遺跡への連絡路を整える。順路設計と案内人の育成で史跡めぐりを開催する。縄文遺跡まつりは継続開催し地区民の意識向上を目指す。

⑤郷土芸能育成事業

郷土芸能の発表機会を増やす等、活発な活動をすることで後継者を育てていき、伝承するための記録を保存する。